

編 集 後 記

そば・うどんという食べものは、譬えてみれば世界における大英帝国である。かつては地上に君臨し向かうところ敵なく栄耀栄華の極みにあつた。だが現代では数ある国々の中で少しばかり余計に伝統の煌めきを残しているだけの一小国に過ぎない。幾百年間にわたつて日本人の生活の主役の座にあつたそば・うどんも現代では多種多様な食べものの群れの中で、ともすれば影がうすらいて見えがちである。いわば成り上がり者の現代風食べものに圧倒されて、そば・うどんは眞の力を發揮できないでいる、これが現代のそば・うどんがおかれた状況ではなからうか。この期に本誌『そば・うどん』を世に送り出すのは他でもない、これが日本人にそば・うどんの魅力を再認識させる一助ともなることを、ひいては食べものの中でのそば・うどんの復権を、願つたからである。ぜんたい、食べものの中でそば・うどんの世界ほど、深遠かつ繊細なロマンに溢れたものが他にあるだろうか。山紫水明の地に白い花をつけたそばが、粉にひかれ、麵棒で打たれ、やがて人々の味覚の愉悦となる。このひと連らなりのドラマにたずさわる登場人物は、なべて心優しく伴せてある。そば・うどんに関心を抱く全ての人々の、喜びと悩みと希望に向けて、『そば・うどん』と名付けた小宇宙をここに捧げる。

鬼	梅	石	斎	早	林	荒	今	国	温	堤	岩	奥	横	池	大	森	井				
頭	山	黒	藤	川	井	野	野	方	井	井	村	田	田	月	沢	上					
義	元	浩	信	カ	省	営	拓	正	広	方	礼	喜	松	宗	久	弘	恵				
則	勇	偉	武	哲	二	夫	カ	三	業	子	義	告	子	子	子	子	章	雄	雅	次	集

そば・うどん (月刊食堂別冊)

©一九七五

定価/二五〇〇円

発行人/柴田眞里

編集人/神山泉

製作/株式会社フード・ビジネス

発行/株式会社柴田書店

住所/東京都文京区本郷三十三三三十五

郵便番号/一一三一九一

電話/〇三(八二三)六〇三一(代表)

振替口座/東京八四五一五

印刷/大日本印刷株式会社